

愛 知 中 部 水 道 企 業 団
地球温暖化対策実行計画
(事 務 事 業 編)

2025（令和 7）年度年次報告書



愛知中部水道企業団

1. 地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

（1）計画の概要

愛知中部水道企業団（以下「本企業団」という。）では、地球温暖化対策の推進に関する法律（以下「温対法」という。）第 21 条第 1 項に基づき、温室効果ガスの排出量を削減することを目的として、令和 7 年 4 月に「愛知中部水道企業団地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」（以下「本計画」という。）を策定し、温室効果ガス排出量の削減に向けた取組を推進しています。

本計画では、二酸化炭素（CO₂）、メタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）を温室効果ガスの対象としており、基準年度は 2013 年度、計画期間は 2025 年度から 2030 年度までの 6 年間としています。

項目	年度									
	2013 (H25)	...	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	...	2050 (R32)
国の温室効果ガス削減目標	基準年度							46%削減		カーボンニュートラル
愛知中部水道企業団地球温暖化対策実行計画	基準年度		計画開始					目標年度		カーボンニュートラル
			← 本実行計画 →							

（2）温室効果ガス総排出量（t-CO₂）の削減目標

項目	基準年度 (2013 年度)	目標年度 (2030 年度)
温室効果ガス総排出量	1,982.20 <1,981.10>	991.10 <990.50>
削減率	—	▲50.0%

※<>内の数値は、当初計画策定時において算出した排出量である。

本計画では、目標年度（2030 年度）に、基準年度（2013 年度）比で温室効果ガス排出量 50%削減を目標としています。ただし、当初計画時において、燃料の使用に伴うメタン（CH₄）及び一酸化二窒素（N₂O）の排出量が集計から漏れていたため、これらの排出量を含めた数値で比較します。

本報告書は、温対法第 21 条第 16 項に基づき、本企業団の温室効果ガス排出状況及び目標達成に向けた取組状況について、毎年度公表するものです。

2. 温室効果ガスの排出状況

(1) 温室効果ガス総排出量 (t-CO₂)

項目	基準年度 (2013 年度)	対象年度 (2025 年度)	基準年度比	
			増減量	削減率
温室効果ガス 総排出量	1,982.20	878.47	▲1,103.73	▲55.7%

2025 年度における本企業団の温室効果ガス総排出量は 878.47t-CO₂ となり、基準年度である 2013 年度の総排出量 1,982.20t-CO₂ と比較して 1,103.73t-CO₂ 減少し、削減率は目標年度の▲50.0%を既に上回り、▲55.7%となりました。

これは、水道事業を運営する本企業団において、温室効果ガス排出量は水道施設のポンプなどに使用する電気の使用量に左右されますが、一部の水道施設廃止に伴いポンプなどを停止し、電気使用量が減少したことによるものです。

(2) 施設別温室効果ガス排出量 (t-CO₂)

施設名	主な発生源※	基準年度 (2013 年度)	対象年度 (2025 年度)	基準年度比	
				増減量	削減率
庁舎	燃料の使用	38.38	57.16	18.78	48.9%
	電気の使用	150.94	95.83	▲55.11	▲36.5%
	小計	189.32	152.99	▲36.33	▲19.2%
水道施設	燃料の使用	0.00	4.09	4.09	—
	電気の使用	1,752.62	700.62	▲1,052.00	▲60.0%
	小計	1,752.62	704.71	▲1,047.91	▲59.8%
公用車	燃料の使用	39.04	20.23	▲18.81	▲48.2%
	自動車の走行	1.22	0.54	▲0.68	▲55.7%
	小計	40.26	20.77	▲19.49	▲48.4%
合 計		1,982.20	878.47	▲1,103.73	▲55.7%

(3) 温室効果ガス種類別排出量 (t-CO₂)

種類	主な発生源	基準年度 (2013 年度)	対象年度 (2025 年度)	基準年度比	
				増減量	削減率
二酸化 炭素 (CO ₂)	燃料の使用	76.38	79.46	3.08	4.0%
	電気の使用	1,903.56	796.45	▲1,107.11	▲58.2%
	小計	1,979.94	875.91	▲1,104.03	▲55.8%
メタン (CH ₄)	燃料の使用	0.91	1.80	0.89	97.8%
	自動車の走行	0.06	0.03	▲0.03	▲50.0%
	小計	0.97	1.83	0.86	88.7%
一酸化 二窒素 (N ₂ O)	燃料の使用	0.12	0.22	0.10	83.3%
	自動車の走行	1.17	0.51	▲0.66	▲56.4%
	小計	1.29	0.73	▲0.56	▲43.4%
合 計		1,982.20	878.47	▲1,103.73	▲55.7%

3. 目標達成に向けた取組状況

(1) 愛知中部水道企業団の取組内容

取組内容		目標
取組1	省エネルギー型設備の導入	更新を予定している機械設備や新たな設備については省エネルギー型設備の導入を検討する。
取組2	照明設備のLED化	既存設備や庁舎を含めた照明設備全体のLED照明導入割合を2030年度までに100%とする。
取組3	電動車(EV、FCV、PHEV、HV)の導入	代替可能な電動車(EV、FCV、PHEV、HV)がない場合等を除き、新規導入・更新については全て電動車とする。
取組4	再生可能エネルギーの導入検討	庁舎改修時に省エネルギーと再生可能エネルギーの導入によりZEB化を目指すとともに、利用可能スペースを有効活用し、太陽光発電設備の導入を検討する。
取組5	再生可能エネルギー由来の電力調達	温室効果ガスが50%削減となるよう再生可能エネルギー由来の電力調達に切り替える。
取組6	日常業務における取組	職員一人ひとりが、日常生活の中で二酸化炭素の排出削減を意識し、積極的に行動することで、低炭素社会の実現を目指す。 ・エコチェックシートによる職員への意識啓発 ・グリーン購入・環境配慮契約等の推進 ・空調の適切な管理(運転管理、制御の最適化) ・会議等のペーパーレス化推進 ・エコドライブの徹底 ・ごみの減量とリサイクルの推進(廃棄物3R※の推進)

※3R…Reduce:リデュース、Reuse:リユース、Recycle:リサイクルの頭文字を取った3つのアクションの総称

本計画では、目標達成に向けて、取組1から取組6までの施策について取り組むこととしており、取組状況についても報告していきます。

(2) 各施策の取組状況

取組１ 省エネルギー型設備の導入

2025 年度は、中央管理室及び宿直室の空調設備を省エネルギー型設備へ更新しました。

今後、機械設備や空調設備、その他設備の更新時には、適正な規模・容量かつエネルギー効率の優れた機器の選定を検討していきます。

項目		2025	2026	2027	2028	2029	2030
省エネルギー型 設備の導入	計画	積極的に導入					
	実績	中央管理室・ 宿直室の 空調設備					

取組２ 照明設備の LED 化

2025 年度は、庁舎改修工事に合わせて東側車庫棟の照明設備を LED 化しました。庁舎において LED 化が済んでいないのは、事務室の一部、屋外照明などとなっています。

今後も庁舎や水道施設の改修に合わせて、照明設備の LED 化を検討していきます。

項目		2025	2026	2027	2028	2029	2030
照明設備の LED 化	計画	照明設備 LED 化 100%					
	実績	東側 車庫棟					



取組3 電動車の導入

2025年度は、公用車の買替えがなかったため、電動車の導入はありませんでした。

今後、公用車の買替えのタイミングに合わせて、可能な限りハイブリッド車や電気自動車などの電動車に切り替えていきます。

項目		2025	2026	2027	2028	2029	2030
電動車の導入	計画	順次導入					
	実績※	6/24					

※実績は、公用車全台数のうち、電動車の台数を表している。

取組4 再生可能エネルギーの導入検討

2020年12月より東側車庫棟に太陽光発電設備を設置しており、発電した電力は本庁舎の電灯回路で全て自家消費しています。2025年度の太陽光発電量は11,329kWhで、本庁舎電気使用量212,660kWhの5.3%となっています。

今後、本企業団が保有する庁舎や水道施設において、太陽光発電設備設置の可能性などについて検討し、次期計画に反映していきます。

【太陽光発電量実績(kWh)】

項目	基準年度 (2013年度)	対象年度 (2025年度)	基準年度比	
			増減量	削減率
本庁舎電気使用量	263,915	212,660	▲51,255	▲19.4%
うち太陽光発電量	—	11,329	—	—

項目		2025	2026	2027	2028	2029	2030
再生可能 エネルギーの 導入検討	計画	導入の検討					
	実績	導入の 検討					

取組5 再生可能エネルギー由来の電力調達

2025年度の庁舎や水道施設を含めた全施設の電気使用量は1,937,026kWhで、2013年度の電気使用量3,689,070 kWhと比較して1,752,044kWh減少し、削減率は▲47.5%となりました。

本企業団の温室効果ガスの発生源のうち、90%以上が電気の使用によるもので、今後、再生可能エネルギー由来の電力への段階的な切替えを検討していきます。

【全施設電気使用量実績(kWh)】

項目	基準年度 (2013年度)	対象年度 (2025年度)	基準年度比	
			増減量	削減率
全施設電気使用量	3,689,070	1,937,026	▲1,752,044	▲47.5%

項目		2025	2026	2027	2028	2029	2030
再生可能 エネルギー由来の 電力調達	計画	動向調査・導入検討・準備				導入	
	実績	動向調査					

取組6 日常業務における取組

●ペーパーレス化推進

パソコン持参の会議運営などにより、2013年度と比較して紙使用枚数は▲7.6%の削減率となりましたが、目標の566,000枚（2013年度比30%削減）には到達していないため、更なるペーパーレス化を推進します。

【紙使用枚数実績(枚)】

項目	基準年度 (2013年度)	対象年度 (2025年度)	基準年度比	
			増減量	削減率
紙使用枚数	809,350	747,500	▲61,850	▲7.6%

項目		2025	2026	2027	2028	2029	2030
ペーパーレス化 推進	計画	紙使用枚数削減 566,000枚/年以下					
	実績	747,500					

●ごみの減量とリサイクルの推進

リサイクルの推進により、2013 年度と比較して可燃ごみは▲41.9%の削減率となりましたが、目標の 1,650kg（2013 年度比 50%削減）には到達していないため、更なるごみの減量とリサイクルを推進します。

【可燃ごみ実績(kg)】

項目	基準年度 (2013 年度)	対象年度 (2025 年度)	基準年度比	
			増減量	削減率
可燃ごみ	3,375.5	1,960.0	▲1,415.5	▲41.9%

項目		2025	2026	2027	2028	2029	2030
ごみの減量と リサイクルの 推進	計画	可燃ごみ削減 1,650kg/年以下					
	実績	1,960.0					

●エコチェックシートによる振り返り

全職員及び委託会社社員を対象として、毎月エコチェックシートによる振り返りを行い、日常業務において環境に配慮した行動の推進や意識の向上を図りました。

項目		2025	2026	2027	2028	2029	2030
エコチェック シートによる 振り返り	計画	実施					
	実績	実施					

エコチェックシート

取組項目（職員の取組）			総合 評価
※次月以降の入力は禁止			
温室効果ガス 削減対策	温室効果ガス R12削減目標 H25比▲50%	1 朝来前、休憩時間、業務時間外は、 unnecessary 証明を消灯する。	
		2 就業後は速やかに退庁するなど、理由もなく庁舎内に留まらない。	
		3 空調設備の節電 空調設備は、庁舎へ出入りの際に出入口の扉を閉める。	
		4 温水給湯との連携による節電 冷蔵庫に必要以上の飲み物を長期放置しない。	
		5 冷蔵庫庫内の空間確保による節電 90分以上パソコンを使用しない場合は、シャットダウンする。	
		6 業務終了後の節電 公用車を運転する際は、エコドライブ10のすすめ(別添参照)に努める。	
3R及び 資源物の推進	紙使用枚数 R12削減目標 H25比▲30%	7 電子データ等の活用により、ペーパーレス化を徹底する。	
		8 書類の再利用を徹底する。 (ただし、情報セキュリティポリシーは遵守すること)	
		9 ミスコピーを防止し、過剰印刷の抑制を徹底する。	
		10 両面印刷または集約印刷（2アップ、4アップ）に努める。	
	可燃ごみ R12削減目標 H25比▲30%	11 印刷プレビューを利用して、ためし印刷印刷の軽減に努める。	
		12 ペットボトルや空き缶などの分別を徹底する。	
資源向上		13 ものを大切に利用して、ごみの減量に努める。 (詰め替えやリサイクル可能な商品の利用、可能な限り手入れや修理などにより長く使用、長期使用が可能な製品の購入など) ※グリーン購入の推進 14 口頭から省エネ・省資源への意識を持って行動する。 (節電、マイボトルやエコバックの持参など)	
		※3R（スリーアール）とは、Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の頭文字を取った3つのアクションの総称です。 ※グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、環境に配慮して、必要に応じて、必要以上の資源が消費されたりしないものを選んで購入することです。	
評価の目安			
5 徹底して実行できた（100%）			
4 概ね実行できた（80%以上）			
3 半分以上実行できた（50%以上）			
2 あまり実行できなかった（20%以上）			
1 ほとんど実行できなかった（20%未満）			
— 該当なし			

